

パレート最適とか消費者余剰、生産者余剰という考え方を話した。復習すると、前のプリントのような曲線、需用曲線と供給曲線を描いて、パレート最適という状態は、両者の均衡点、つまり交点になっている。均衡点をもっとも効率的な状態である。この状態をパレート最適という。先週言ったとおり、消費者余剰というのは、消費者が支払いたい金額から実際に支払った額の間形成される三角形のことをいう。その面積（各消費者余剰の合計）が消費者余剰になる。詳しくはプリントに書いた汚いグラフ参照。

次に生産者余剰は、生産にかかった費用と実際の価格とで形成される三角形の面積ということになる。これも詳しくはプリントに書かれた汚いグラフ参照。

話は変わるが、補助金というのがいかにして国民経済にマイナスに働くかということグラフで考える。補助金に関しては、構造調整プログラムというものが昔世界銀行を中心にしてあったのだが、知っている人はいるだろうか。これは1980年くらいから始まった。今リーマンなどによる金融危機になっているが、そのそもその原因がこれである。お金を貸し出して、大量のお金が途上国に渡った。そのとき1990年、日本はピークであった。株価でいうと38000円という株価であった。現在は11000円である。そのときにSAL（構造調整プログラムのこと Structural Adjustment Lending (Program)）というODAで大量のお金をSALの遺憾として捻出した。この時に、価格自由化というものをやった。

価格の自由化というのは、一つは統制価格の撤廃。二つ目は為替の自由化。三つ目は金利の自由化。ということで、この当時「ケインズは死んだ」といわれ、価格が自由化され、競争が取り入れられるようになっていった。この時に中心となったのが、レーガン、サッチャーと中曽根総理である。

急に出てきた実物経済という単語と金融経済という単語。こういうのがあって、どっちが世の中を動かしていると思うか？金融というのが実物経済よりは影響力が現在大きいのである。どうやったらお金を腐らせられるかについて、年金で石油を買ったらという例を挙げて説明中。。。投機に失敗して1997年に山一証券が、最近ではリーマンが潰れたりした。こういう動きは心理で動くので、更正が不可能なのである。心理はコントロールできない。昔から金利で動く相場があった。大阪では米の先物市場とかがあったが、こういう金融経済というのはコントロールが不可能なのである。そういう世界に構造調整プログラムで、SALの国々にお金を出すということになったが、よく分らんが条件として自由化することになり、自由化が進んでいったのである。現在自由化していないのは、北朝鮮やミャンマー、キューバなどである。なので、SALというもので途上国各国が自由化していった。その中で遅れていたのは日本であった。日本はなぜ自由化しなくて良かったのかというとあまりにも経済が大きかったので、調整が難しく移行しにくかったので、許しても

らっていたみたいなの？

んで、一つ目の統制価格の撤廃についてだが、この統制価格というのは米価ある国がかなりあった。日本も昔は米価で価格統制していた。

それで、なぜ補助金を出すと経済が行き詰まるのか。グラフを書き始める。政府がある価格で米を販売するとする。その一定の線は点線で書いた。それと需用曲線との交点の量の需要がある。その価格を10円とする。するとその分だけ生産しないといけないことになる。しかしこれだけ生産するためには、政府がどの上の供給曲線の交点の価格で買い上げないといけない。すると補助金はその差分だけ必要になる。これがどうしてパレート最適よりも悪い状態なのかを考える。

それぞれ、ABCDEF というように記号を付けた。詳しくはプリントに書いた汚いグラフ参照。消費者余剰については、 $A+B+E$ ということになる。次に生産者余剰についてだが、 $F+B+C$ 。そこに補助金の分を差し引きしなければならないので、 $B+C+D+E$ を引かなければならない。すると答えは $A+B+F-D$ ということになる。しかしパレート最適における社会的余剰は $A+B+F$ 。従って補助金を出す限り、毎年 $-D$ の分だけ余剰は損しているということになる。

この被害にあった国は代表的なものに中国がある。中国は 1979 年に改革開放を行った。SAL が行う構造調整というのは、構造財政改革である。一つは歳出、もう一つは歳入。歳出については補助金・公務員・軍事費、これらを減らささいというものだった。んでこの補助金の中に米や石油など、統制価格を実施していたものが含まれていて、統制価格を廃止するようになった。その中で残ったのが日本なのである。なので最近公務員改革、行政改革が残っていて、現在も行われている。

歳入に関しては付加価値税というものが導入された。

しかし、世の中マーケット、市場があればうまくいくのかということとそうでもない。ここで出てくるのが、市場の失敗というものである。対義語は政府の失敗というけど。例えば市場の失敗では、一つに公共財がある。例えば電波とかがある。8 時間電波を流すとしたら、みんなの家庭に平等に 8 時間電波が送信されたことになる。これは何を言いたいかというと、誰かがその電波を利用してテレビを見ていたとしても、他の人もまた、何人でもその電波を見ることができるといこと。みんな同じく満足を享受できるということである。そういう意味で公共財である。では世の中に公共財は何個あるだろうか。民間財と公共財があるので区別していかなければならない。

脱線しているが、JICA と何かが分かれたらしい。JICA というのは国際協力機構のこと。9 月 30 日までは JBIC という、国際協力銀行というところがあった。どうして銀行の中に政府と民間があるのか。もともと JBIC は二つの組織であった。というのは一つに輸出入銀行、もう一つに海外経済協力基金という二つの組織であった。これが一緒になったのが 5、6

年まで、輸出入銀行が民間に、海外経済協力基金が国際協力機構になり、New JICA になった。ではどうしてこのように分かれたのか。それがこの市場の失敗の公共財である。なんかよくわからん。

もう一つもっともわかりやすい市場の失敗は、外部不経済というものである。これはプリント参照。汚いグラフを書こう。民間の企業が廃液や煙を出す。すると民間の供給曲線とは別に上の供給曲線が出来、それは公害の分である。公害は民間企業は処理しないからね。すると民間同士の均衡点と、社会での均衡点が違うことになる。それぞれ AB とすると、なんか社会の損失になる。らしい。詳しくは自習やる。